

にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通2-13
TEL 025(223)6381

患者さんとの出会いを大切に ある子どもとの間で起きた不思議な出来事

新潟県医師会 理事 田中 篤



1歳9か月のマーちゃんに出会ったのは、医師になりたてで大病院で働いていた時、指導医の指示で抗がん剤を投与すると、劇的に熱が下がって元気になった。元気になる、本当に愛くるしいお子さんで、暇さえあればマーちゃんの部屋に行って一緒に遊ぶのが日課になった。同じ治療をしても効果が無いと、その当時の主治医から連絡を受けたのは発症から約1年後で、私が地方の病院に勤務していた頃

卒業おめでとう



皆さんへ伝えたい キーワード

魚沼基幹病院 病院長 生越

6年間あるいは人によって10αの医学部生活を終了し、医師となる皆さんへ心からのお祝いを申し上げます。「おめでとうございます」

「答えのない問題」
皆さんは紙面やコンピュータ画面の問題に対し、正しい答えをある一定のレベルを超えて回答する訓練を受けてきました。今は医師国家試験に對しても「が簡単に合格するそうです」とが、実際の世の中は「に聞いても明確な答えの存在しない問題であふれています。答えのない

ちゃんのだらぬならぬ心配に押し返されて、別のお椀にお茶を移しかえてみた。すると、マーちゃん、また別のお椀を指さし、そちらに移し替えてくれ、それもだめと結局は元のお茶碗に戻り、何周も器の移し替えてをさせられた。
お母さんは、「最近機嫌が悪くてただ困らせようとしているだけだから相手にしないで、もう遅いからお帰して下さい。」と申し訳なきさうだったが、マーちゃんの病状から今度会えるかどうか分らないという思いと、新米で点滴も採血もへたくそで何回もごめんねと謝りながら痛い思いをさせたことや抗がん剤による吐き気や脱毛でマーちゃんを苦しめたことなどの思いが私の心の中に来去していた。そして、なによりマーちゃんのだらぬならぬ雰囲気を感じて、今日はマーちゃんの気のすむまでとことん付き合おうと心に決めてお茶の移し替えてを延々としていた時に、突然マーちゃんがベッドにひっくり返って仰向けになり、じっとした。最初、何が起きたのか、私もお母さんもお互いに目を合わせ合せて、どうやら私に診察をしろと要求しているようだった。慌ててナースステーションに走って聴診器を借りてきて診察をさせてもらった。「最近、不機嫌で主治医の診察も拒否して困っている。」とお母さんが言っていたので、あの時、なぜ、2歳半になったマーちゃんが無

い問題は、考えを放棄するのでなく、常にどうしたらよいかを自問しつづその場その場で最善策を模索していくしかありません。医療の現場で迷ったとき自分自身は「自分や、家族がこの状態ならどうするか」と考えて行動しています。
【医療経済】
単純な答えのない問題の代表です。医学部ではほとんど教育を受けていないかもしれませ

意味と思われたお茶の移し替えての後に、具合が悪くて不機嫌だったにもかかわらず、じっと最後まで診察をさせてくれたのか分からず、ただ不思議な体験をしたという思いだけが、私の心に残った。それから間もなくマーちゃんはあの世に旅立った。
私は今、子どものころ専門医として、子どもの様々な訴えや症状に振り回されながら診療をしている。時には、もつと揺るぎない自信をもって向き合えたらと思うこともあるが、子どもをもつと深く理解しようと思えば思うほど、ひたすら耳を傾けるしかなく、結果的に振り回されていることも少なくない。このような診療に時には疲れや迷いを覚える。そのようなとき、40年以上前に出会ったマーちゃん、今の私の診療の在り方、子どもとの向き合い方に大切なメッセージを残してくれていたことに気づかされ、私の背中をしっかりと支えてくれていたことを感じるようになってきた。子どもに真正面から向き合うこと。こちらの望む姿に急いで変えようとするのではなく、まずは子どもとしっかりと向き合うことが必要だと教えてくれているような気がしている。
皆さんも、これから出会っていくであろう、それぞれの患者さんとの出会いを大切にされることを願っています。

【情熱】
医学の進歩には目を見張るものがありますが、解決できていない問題は無数にあります。整形外科領域でも高エネルギー多発外傷、脊髄損傷、進行性肉腫、重症骨関節感染などまだまだ未解決な分野が山積みです。先人たちが膨大な「情熱」をもってここまで多くの課題を解決してきました。医学・医療の進歩には今皆さん一人一人が持っているであろう「情熱」をいっつも持ち続けることが不可欠と感じています。
【誠実】
どんなに優れた知識や技術を保持していても、患者さんに対する「誠実」さを忘れては良い結果が得られないと思います。自分の力に溺れることなく、真に患者さんのためにどうすべきかを「誠実」に考えて実行してください。

【チームワーク】
ドラマのヒーローのように、一人でなんでもできてしまう医師は大なる幻想です。他の医師だけでなく、看護師、薬剤師、療法士、放射線・検査技師、事務スタッフなどの多くの専門職が関わり合い、患者さんの治療を支えています。時として強い立場になる医師のちよつとした強引な振る舞いが、他のスタッフからハラスメントと判断されることがあります。ぜひ「チームワーク」を大事に仕事を進めてください。どうしても「チームワーク」がよくならない場合は、相手を敬う気持ちがあればうまくいくと体育会系の単純な自分自身は思っています。
【自己の健康管理】
食事・睡眠・運動が健康の根

人を診るといふこと 心に耳を澄ます医師へ

新潟大学大学院医歯学総合
研究科精神医学分野 教授 朴 秀賢



卒業される皆さん、ご卒業、誠にありがとうございます。医学の学びは、膨大な知識と厳しい実習の連続であり、決して容易な道のりではなかったはずですが、それでも皆さんは、自ら選んだ医師という道から目をそらすことなく、今日まで歩み続けてきました。長い年月にわたる学修と研鑽を積み重ね、この節目の目を迎えられることに、心から敬意を表します。
私は精神科医として、これまで多くの患者さんと向き合ってきました。その中で強く感じることは、医療とは単に病気を診る営みではなく、「人を理解しよう」とし続ける姿勢、そのものだということです。身体の不調の背後には、必ずその人の生活があり、価値観があり、そして心があります。皆さんがこれから出会う患者さん一人ひとりが、病名だけでは決して語り尽くせない人生を背負っています。現代医療は、科学としての医学を急速に発展させてきました。診断技術は精緻になり、治療の選択肢も飛躍的に広がっています。一方で、医療の現場では今もなお、「答えの出ない問題」に直面する場面が少なくありません。特に心の問題においては、数値や画像だけでは捉えきれない苦悩が存在します。だからこそ医師には、知識や技術に加えて、迷いながら考え続ける力、そして相手の言葉に耳を傾ける姿勢が求められます。
医師として歩み始める皆さん自身も、これから迷いや不安を感じることもあるでしょう。自分の判断は正しかったのか、もっと良い関わり方があったのではないかと、自問する場面もあるはずですが、しかし、その葛藤こそが、皆さんが「人の心を大切にしよう」としている証「であり、医師として成熟していくための重要な過程です。どうかその揺らぎを否定せず、自分自身の心にも目を向けてください。精神科の立場から、もう一つ伝えたいことがあります。それは、医師自身の心を守ることも、重要性です。医療の現場では、責任感の強さゆえに無理を重ね、自らの限界に気づきにくくなる場合があります。疲労や不安を感じることは、決して弱さではありません。誰かに相談すること、助けを求めることは、源とされています。若い時は無茶がちなですが、長く良い医療を続けるには自分が健康であることは重要です。コンビニに依存する食事ではなく、食を大事にし、眠れるときはしっかりと寝て、運動を継続してください。自分自身は運動が大好きで、柔道、スキー、野球、自転車を楽しんできました。「生涯スポーツ」として、自転車に乗ることを続けています。
【学ぶことは楽しいことだ。もし苦しいと思うときは、何が狂っているか。】
新潟大学整形外科の第2代教授、天児民和（あまこたみか）先生が残された言葉です。先生が残された言葉から、医学を進歩し続ける医学ですから、医師である以上一生の学びは必須

専門職としての成熟した態度でもあります。自分の心の状態に気づき、適切にケアすることは、結果として患者さんを守ることもつながります。
また、医療は決して一人で完結するものではありません。多職種との連携、同僚との対話、先輩や後輩との関係の中で、皆さんは支えられ、育てられていきます。精神科医療がチーム医療を重視してきたように、互いの専門性を尊重し、人と人とのつながりを大切にすることが、すべての医療分野に共通する基盤です。
これから皆さんは、それぞれ異なる道を歩んでいくでしょう。しかし、どの分野に進んだとしても、「目の前の人を一人の人間として理解しようとする姿勢」は、医師としての軸であり続けます。患者さんだけでなく、同僚や家族、そして自分自身に對しても、その視点を向けてください。ぜひ時間をかけて、自分なりの医師像を育ててほしいと思います。
皆さんの未来が、患者さんの希望となり、社会の支えとなる。そして皆さん自身にとっても誇りあるものとなることを、心から願っています。教員として、精神科医として、私は皆さんの歩みをこれからも温かく見守り、応援し続けてさせていただきます。
改めて、ご卒業おめでとう申し上げます。どうか自信と謙虚さに、それぞれの医療の現場へ力強く羽ばたいてください。
【よくみた10例は雑にみた100例に勝る】
新潟大学整形外科の第3代教授、新野佐由（こののさゆ）先生が残された言葉です。医学では大規模データによるエビデンスが日々重要視されています。しかし、真に患者さんの幸せにつながる診断や治療は膨大なデータだけがもたらすわけではありません。みなさんが一例一例しっかりと患者さんに寄り添って得た経験が、次の患者さんへの福音になることはまちがいありません。どうぞ一人一人の患者さんとの出会いを大切に、医療に励んでください。

ご卒業おめでとう ございます

上越総合病院 神経内科 油谷 頌子 (令和3年卒)



この度はご卒業誠にありがとうございます。ご家族とおめでたうございます。つかの間の開放感を謳歌されていきますか？それとも、新生活への期待や不安が胸がいつぱいでしょう。新品の白衣に身を包み緊張して迎えた研修初日のことを、私は今でも鮮明に覚えています。門出に際しエールを贈るべく、僭越ながら筆を執りました。

これから皆さんが向き合うのは、試験勉強で散々見てきた「〇歳、主訴は××、現病歴は云々」という無機質な症例問題ではなく、生身の患者さんです。けれども、日々の業務に追われると、どうしても診療をルーティーン

ご卒業おめでとう ございます

新潟市民病院 小児科 小林 舞子 (令和4年卒)



ご卒業心よりお祝い申し上げます。私は医師4年目、小児科医として2年目になります。少しだけ先を歩くと先輩として、春から研修医として一歩を踏み出す皆さんに、僭越ながら、研修医として大切にしてほしい2点をお伝えいたします。

1つ目は、「チーム医療におけるコミュニケーション」です。医師の仕事は一人では決して成り立たせません。看護師さんや検査技師さんなど、多くのスタッフに支えられて初めて、私たちは診療ができます。だからこそ、日頃から笑顔で受け答えをし、職種を超えて「話しやすい雰囲気」を作ることが、結果的に自

医師人生としての「ミッション」

亀田第一病院 研修医 原沢 健太郎 (令和6年卒)



この度は、ご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆様の医師人生が実りあるものになるよう、心より祈念しております。研修生活のアドバイス等は、優秀な先生方の寄稿にお譲りすることとして、小生は思うことだけ、乱文で恐縮ですが書き連ねさせていただきます。小生が本学を受験した時(2018年)の予備校の資料をみると、こんな文章を見つけました。以下にその一部を転記させていただきます。

「人は、人生の抽象的な意味を捜し求めるべきではない。だれでも人生にはその人に固有のミッションがあり、それは、ぜひとも実現すべき具体的な課題をなしとげることである。希望のない状況に直面したとしても、変えられない運命に直面したとしても、それでもやはり人生に意味を見つけていることができるということを決して忘れてはならない。」

皆様は、失敗をしたことはありますか。変えられぬ運命に直面したことは、ありますか。例

え、本学を受験する際の浪人、人間関係での失敗、親の病死、ほか色々なことがあると思います。それが、皆さんの人生の苦味となり、旨味となります。万が一にも、これまで何一つ失敗を経験していない先生方でも、これからの2年間は必然として苦味・旨味をつける期間になります。

逆に言えば、皆様がこれから相手とする患者さんのなかに、上に記した「ミッション」を十分に叶えられず、その生を終えようとしている人もいます。彼らの人生の後半に立ち会えることが、皆様の仕事です。不幸と対峙することに、あなただけの気持ちと考えを持ってください。各々の見方は違っても、そこに5年後、10年後の皆様が見えるかもしれません。

医師として歩み始める皆さんへ

長岡中央総合病院 研修医 平塚 侑 (令和7年卒)



ご卒業、誠におめでとうございます。私は現在、研修医1年目として長岡中央総合病院で初期研修をしています。ほんの一年前まで皆さんと同じ立場にいた者として、新たな一歩を踏み出される皆さんに、心からのエールをお送りしたいと思います。

これまで皆さんは、医学部受験に始まり、基礎医学・臨床医学の試験、CBT、OSCE、臨床

改めて、皆様の医師としての門出をお祝い申し上げます。ご自身のお体にも気を付けて、臨床研修に励んでください。

参考文献
ヴィクトール・H・フランクル・「夜と霧」・みすず書房・1956年

方が、百倍楽しい」とよく言われていました。当時は半信半疑でしたが、実際に臨床の現場に立ち、その言葉の意味を実感しています。患者さんの回復に直接関われる喜びや、チーム医療の中で自分の役割を果たせる充実感、学生時代には味わえなかったものです。

はじめは不安に感じることが多いかと思いますが、できることが増えるということは、その分責任も大きくなります。自分の判断や行動によって、患者さんに不利益を与えてしまうのではないかと怖くなることもあるでしょう。しかし、決して一人で抱え込む必要はありません。新しく出会う同期研修医と支え合い、先輩研修医や上級医・指導医の先生方を頼りながら、一歩ずつ成長していくことが大切だと感じています。

皆さんがそれぞれの現場で多くを学び、患者さんに寄り添える医師へと成長されることを心より願っています。医師としての「楽しさ」を実感しながら、充実した研修生活を送ってください。

編集後記

ご卒業おめでとうございました。にいがた勤務医ニュースは、年4回県医師会が発行していますが、春は先輩たちから卒業生に贈ることを特集しています。最近の研修医は、システムや先輩たちから守られ大事にされています。そのため3年目からの専門研修に進んでから厳しい経験をすることも多いようです。つらい経験も将来の糧とできるように、何でも吸収してプラスに変える力の発揮が、経験年齢の若い人には期待されます。先輩たちがそうであるように、どの分野に進んでも、興味深いことは多いと思います。業務も人間関係も余暇も楽しんで、自分を伸ばし、良かったと思える医師生活になることを期待しています。

(伊藤)

ご卒業おめでとう ございます

済生会新潟病院 消化器内科 米倉 暢拓 (令和5年卒)



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。国試の重圧から解放された今、どのような気持ちでしょう。春休みを満喫しながらも研修医生活に希望と不安がある、そんな複雑な心情ではないでしょうか。この春から研修医になる皆さんに、僭越ながらメッセージを伝えさせていただきます。

まず、これからの2年間の出会いを大切にしてください。大勢の同期に囲まれ、各科の指

導医とも交流を深められる。そんな恵まれた環境は3年目以降は望んでもなかなか叶えられませんが、この貴重な2年間の出会いが必ず皆さんの将来の糧になります。

次に、臨床でしか学べないことを学んでください。研修医になると、当然ながら患者さんからもスタッフからも、指示や病状説明など医師としての対応を求められます。医師になったことを実感できる、やりがいのある瞬間でしょう。

そのような中で、どんなに成書で勉強しても実臨床に出ないと学べない事が沢山あります。

例えば、国試ではすぐに診断のつく典型例が出現されますが、実際にはすぐに診断に至る症例ばかりとは限りません。

治療に関しても、教科書に初期治療については詳しく記載されているものの、その後の全身管理や輸液・薬剤の調整、退院に至る過程までは書かれていません。それは患者さんによって千差万別であり、一般化するのが困難だからです。例えば輸液だけでも年齢、性別、体重や心機能、腎機能などを考慮する必

要があります。そのような場面で上級医がどのように考え、対応しているのかをぜひ学んで頂きたいのです。

研修医というと救外での初期対応、処置などに重きを置かれがちですが、そこで出会った難しい症例の「その後」まで意識することができると、より充実した研修になると思います。

最後になりますが、皆さんが2年間の初期研修で大きく成長し、将来様々な分野で活躍されることを願っております。